

平成28年度客員教員候補者一覧  
 (火山噴火予知研究センター、地震・火山噴火予知協議会推薦枠)

整理 番号	氏 名	現 職	研 究 課 題	担当教員
1	おざわ たく 小澤 拓	防災科学技術研究所 主任研究員	衛星SAR・地上設置型レーダー 干渉計による火口周辺の地表 変動に関する研究	大湊 隆雄 准教授
2	ばん まさお 伴 雅雄	山形大学 理学部 教授	蔵王山、約800年前以降の噴火 推移解明に関する研究	中田 節也 教授
3	やすい まや 安井 真也	日本大学 文理学部 准教授	安山岩質火山の噴火の推移と 噴火様式	市原 美恵 准教授
4	やべ やすお 矢部 康男	東北大学 大学院理学研究科 准教授	摩擦すべりに伴うAE活動の湿度 依存性	加藤 尚之 教授

\* 整理番号は五十音順

## 火山噴火予知研究センター／地震・火山噴火予知研究協議会推薦客員教員（4名）

氏名 小澤 拓  
所属 防災科学技術研究所  
職名 主任研究員  
研究課題 衛星 SAR・地上設置型レーダー干渉計による火口周辺の地表変動に関する研究  
推薦理由 小澤氏は火山の火口周辺に着目した衛星 SAR 解析により火山活動に関する様々な地表変動の検出とそのモデル化を進めてきており、この分野における日本のトップランナーの一人である。衛星 SAR 解析により世界各地の火山の火口周辺における地表変動を面的に捉え、火山活動の評価に応用することを目指す。また、浅間山において高い時間分解能を持つ地表設置型レーダー干渉計解析を行う。これを他の地球物理観測と比較検討することにより、浅間山の火山活動の解明に大きく貢献することが期待される。いずれの研究も、火山噴火予知研究の進展に大きく寄与するものであり、小澤氏には火山活動解明のための研究を牽引していただけると期待している。これらの理由から小澤氏を客員教員として推薦する。

氏名 伴 雅雄  
所属 山形大学理学部  
職名 教授  
研究課題 蔵王山、約 800 年前以降の噴火推移解明に関する研究  
推薦理由 伴氏は、これまで東北地方の火山フロントにある火山の発達史に関する物質科学的・年代学的研究を進めている。特に、水蒸気爆発発生が懸念される蔵王火山について詳細な噴火履歴の研究をとりまとめ、一旦開始した水蒸気噴火の推移、水蒸気爆発からマグマ噴火への分岐判断などについて焦点を当てて研究に取り組んでいる。平成 27 年度には地震研客員教授として水蒸気爆発のポテンシャルが高い蔵王山の火山灰層序の再検討を行った。平成 28 年度は、水蒸気噴火からマグマ噴火に移行した時期の層序を集中的に調査し、噴火推移を明らかにすることを計画している。2 年間の継続的研究により、蔵王火山の噴火シナリオ作成への大きな貢献が期待できることから、来年度も引き続き、伴氏を客員教員として推薦する。

氏名 安井真也  
所属 日本大学文理学部地球システム科学科  
職名 准教授  
研究課題 安山岩質火山の噴火の推移と噴火様式  
推薦理由 安井氏は、浅間山の天明噴火や桜島の大正噴火のような大規模噴火の推移と噴火

様式について、火山地質学的手法による研究を長年にわたって進めてきた。安井氏の研究は、日本の火山の多数を占め、かつ、大規模な噴火をおこし得る安山岩質マグマを噴出する火山の最近の噴火事例を対象として、地球物理的観測データおよび地質学的データなどの総合的検討と国内外の噴火事例との比較によって、噴火推移と噴火様式の実体を明らかにするものである。大規模噴火をおこし得る安山岩質火山については、噴火シナリオの作成が社会から要請されており、噴火推移と噴火様式の理解は噴火シナリオの作成に大きく寄与することが期待できることから、本分野の最適任者である安井氏を客員教員として推薦する。

氏名 矢部康男

所属 東北大学大学院理学研究科

職名 准教授

研究課題 摩擦すべりに伴う AE 活動の湿度依存性

推薦理由 建議（災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の推進について）に基づく研究を進めていくうえで、計画全体の効果的な推進を実現するために適切な予算配分を行うための指導力を発揮できる教員が必要である。矢部氏は、平成 25 年度まで地震発生・火山噴火素過程の部会長および予算委員会委員として活動され、平成 27 年度には予算委員長として、地震・火山噴火予知研究協議会の運営に参画した。この経験を活かし、平成 28 年度も予算委員長として協議会での研究推進に貢献していただくことを期待している。また、矢部氏は摩擦すべりに伴う断層面上の微小破壊振動（AE）を利用して摩擦特性を調べる研究を推進している。この研究は、断層摩擦の素過程に基づく地震発生のモデル化のために重要であり、物理モデルに基づき地震発生予測を目指す地震火山観測研究計画の方針とも良く合致している。これらの理由から、来年度も引き続き、矢部氏を客員教員として推薦する。